

石巻赤十字病院

バックキャスト研修レポート

7期生 Dグループ

1. 背景・事前知識

参加メンバーは薬学・歯学・医工学・医学の研究に従事し、これまでの講義や研究で医療について学ぶ機会は多かったが、地域医療の実像や災害医療に対する接点はとぼしかった。各自の専攻分野・研究内容との関連があると想定されるテーマを意識し研修に臨んだ。

2. 目的・到達目標

1. 地域の総合病院における地域医療・災害医療の現状を把握し、課題を抽出する。
2. 見出した課題から未来型医療のニーズと解決策を構想する。
3. 現場観察と自分たちの研究テーマの接点を考察する。

3. 研修内容（行程概要）

1 日目（石巻赤十字病院）

- ファシリテーターの氏家先生より、宮城県の医療計画や医療圏、救急体制など地域医療について講義していただいた。
- 地域医療連携課より、石巻赤十字病院や石巻・登米・気仙沼医療圏について説明していただいた。また総合患者支援センターについての説明とともに、地域包括ケアシステムや喘息や心不全など様々な疾患の石巻地域ネットワークについて説明していただいた。
- ドクターカー、ヘリポート、免震構造、夜間救急、救急病棟について見学した。災害時の医療提供継続性（搬送手段・地震対策・地上ヘリポート等）に関する特長を学んだ。

2 日目（石巻赤十字病院）

- 手術支援ロボット（ダヴィンチ）を用いた直腸癌手術、乳癌手術などを見学した。
- 臨床心理課、血液浄化センター、薬剤部、脳神経内科、緩和ケアセンターを見学させていただき、現場での実情や採用されている機械・システムなどを学んだ。

3 日目（石巻赤十字病院）

- 災害医療講義により、東日本大震災時の初動記録から、救護体制・役割分担・通信確保の重要性を学んだ。
- 原子力棟の除染室や処置室などを見学した。
- 褥瘡ケアの講義を受け、実際の症例も提示していただき、病院での介護としての側面や長期臥床の患者のケアの難しさを学んだ。
- 高齢者医療の課題（認知症や医療経済など）について講義をしていただいた
- 栄養課、検査課、リハビリテーション課を見学させていただき、様々なメディカルスタッフがそれぞれの専門性を発揮している現場を見学させていただいた。

4 日目（南三陸病院・地域学習）

- 大川小学校などの石巻震災遺構を見学し、また現在の街並みを見ることで、津波被害や復興の状況を学んだ。
- 南三陸病院の療養病棟や訪問診療に同行させていただいた。

5 日目（成果と発表）

- 各自の観察・ヒアリングを深掘りし、心理社会的な相談、褥瘡予防、患者からの事前聴取、肛門洗浄などに関して課題を設定し、ニーズ・ステートメントとソリューション案を考え、1人15分程度で発表した。

4. 観察結果と考察

4.1 地域中核病院の災害対応と継続性

- 石巻赤十字病院では、免震構造、原子力棟、地上ヘリポートなど大規模災害時を意識した設備設計がされていた。また全国の災害地域への医療スタッフの派遣も行っていて、そこで得たノウハウは今後再び災害が石巻を襲った時に生かされると考えられた。宮城県沖は地震の多い地域であり、東日本大震災の経験も踏まえて、石巻赤十字病院は地域の災害医療の要であると認識した。
- 大川小学校などの震災遺構学習を通じ、避難判断・情報共有・訓練の重要性を再確認した。
- 復興庁による東日本大震災の復興事業は2025年で終了となり、石巻や南三陸の街は不自由のない日常生活を送っている印象だったが、心理的なハードルから今でも他県の災害派遣に行けないスタッフがいるなど、震災の爪痕はこれからも長く残り、震災で得た教訓は未来永劫下の世代に伝え続けていく必要があると実感した。

4.2 急性期の現場と業務負荷

- 救急・高齢者医療の現場は、少子高齢化の影響で人手不足でありながら創意工夫により質を保っていると感じた。多職種連携、デバイスの利用、役割分担（タスクシフト）の重要性は今後も高まっていくと考えられる。
- 手術見学では、手術前のタイムアウトなど医療ミスを減らすための工夫や、手術での様々なデバイス（電気メスやステープラー）を学んだ。またダヴィンチを操作する上で、3D映像の技術を用いていることが印象的だった。

4.3 在宅療養と介護者支援

- 南三陸病院での訪問診療同行では、在宅療養の実情、介護者の負担を実感した。しかし一方で、病院の外では患者も医療者も病院内とは違う表情をみせることが印象的であった。

5. 改善点と研修の限界

- 5日間では反復観察や継続的インタビューが難しく、ニーズの真贋判定に限界があった。

- 実習では医療者側からの意見を聞くことが多かったが、実際に受診している方、地域で生活している方からの意見を聞く機会は乏しかった。医療者からのニーズに対応した解決策を地域住民がどのように考えるか検証する必要があると思われた。

6. 自身の研究や今後に生かせる点

- 認知症により高齢者の医療がどのような影響を受けるのか学ぶことができ、認知症研究の重要性を再認識した。
- 薬剤部では、治験薬がどのように保管・管理されているのかを見学することができた。研究の集大成として新薬が臨床の現場で患者の治療に使われようとしている現場は薬学の研究者として感慨深かった。
- 普段はマウスや細胞を用いた研究を行っているが、そのような基礎研究の積み重ねが医療の発展につながっていると感じ、今後臨床現場をイメージした研究ができることは私たちの大きな強みになると考える。

7. まとめ・謝辞

- 本研修により、災害に強い地域中核病院の設計思想と運用、在宅を含む地域包括ケアの現場を学び、また課題発見とアイデア創出のプロセスの難しさと面白さも実感することができた。
- 受け入れてくださった石巻赤十字病院・南三陸病院の皆様、ファシリテーター教員、未来型医療創造卓越大学院の先生方・スタッフの皆様に深く感謝申し上げます。